

TZ 〈ほんの窓〉

第 36 号 (2015. 7. 1) 一橋大学附属図書館高本善四郎氏助成図書コーナー「本の紹介」班

保険の歴史 (日本)

明治維新により日本の近代化の幕が切り落とされると、信用制度、郵便制度、輸送基盤の整備など、工業化のためのインフラへの投資が活発となりました。

物流の促進・貿易の振興のため海上保険が必要となり、東京海上が 1879 年に設立されました。同社の初期経営は、合理的なものといえず、その結果経営も不安定でした。

続いて起こったのが、生命保険事業でした。福沢諭吉門下の阿部泰蔵が 1881 年に設立した明治生命は、近代的生命保険の要件を備えていました。同社は、明治維新および近代化にともなって生まれたテクノクラートをはじめとする中間層を顧客としました。次におこったのが火災保険で、最初の火災保険会社である東京火災

(1887 年設立)は、リスクの分散が難しく、そのためもあって過小資本に悩む不安定な初期経営でした。これに対して、最初はグループ企業内の自家保険により資金とノウハウを蓄積した上で新設会社とした明治火災(1891 年設立)の方が経営的には安定していました。

海上保険は法人需要が中心であり、かつ海外との関係が重要だったので、東京海上を追ったのは少数企業でした。これに対して生命保険と火災保険は、国内市場での営業のウエートが高いことから、参入障壁が小さく感じられ、数多くの企業が設立されました。



保険会社の歴史

保険会社は就職先として人気がありますが、会社研究のために財務諸表などウェブで入手可能な資料を利用している方が多いと思います。このことについて否定は致しませんが、会社を深く知るためには、その会社の歴史を知ることが近道です。日本の保険会社の多くは、社史を刊行しているので、大変参考になります。



【主要な会社史資料】

東京海上百二十五年史 (Vqfb:2:5)

明治生命百二十年史 (Vqfb:4:12, 補遺 Vqfb:4:13)

安田生命 123 年史 (Vqfb:11:3) ほか、本館地階 旧 IIR 会社史コーナーに多数あり。

これ以外に、保険の歴史の通史がいくつかあり保険産業の歴史を知るために大変役に立ちます。さらにやや専門的になりますが、戦前の会社の考課状（アニュアル・レポート）は、図書館のデータベースを活用して入手することが可能です。

【保険の歴史・保険産業史】

生保コンツェルン讀本 / 高垣五一著 (Dbc:22:14)

生命保険業 100 年史論 / 宇佐見憲治著 (Hc:142)

明治大正保険史料 / 生命保険會社協會編纂, 全 9 冊 (Hc:11)

昭和生命保険史料 / 生命保険協會編, 全 10 冊 (Hc:11)

※Annual Report は http://www.lib.hit-u.ac.jp/retrieval/search/keizai_corpinfo.html を参照。

保険は保険契約をとおして行われるサービスなので、産業企業のようにモノとして残っているものが少なく、イメージをつかみにくい産業です。これを補完するための歴史史料として、保険営業案内や保険証券などがあります。これらの一部は、デザイン史として見ても面白いものがあり、また会社史に記載されていない商品の詳細などが記載されていることがありますので、わが国の保険の歴史をより深く理解するために大切な史料です。しかしながら、このような史料の多くは、保存を目的とするものではないため、各保険会社の図書室で保管されているほかは、ごみ屑のなかで消えて行ってしまうようなものです。私はこのことに気づき、古書店等で出来るだけ多くの戦前の保険史料の収集に努めています。今回は、その一部を公開し、「鑑賞」していただきたいと思います。

(商学研究科教授 米山高生)

展示についての詳細な解説は、以下のサイトに掲載しています。

http://www.lib.hit-u.ac.jp/pr/reading/tz/html/tz_036.html